

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2年 2月28日

事業所名 放課後等デイサービス そらば

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	60%	40%	0%	死角が出来ないように職員配置を考えている。	
	2	職員の配置数は適切である	60%	40%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	60%	40%	段差や階段があるが、手すりや滑り止めを貼り安全な環境を作っています。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	80%	20%	0%	毎日の昼礼や毎月の事業所会議で話し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	40%	60%	0%	日頃から申し送り時の会話ややり取りを大切にしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	20%	80%	0%		公開しているが、職員への周知が出来ていなかった。情報の共有に努めたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	80%	0%		第三者評価の実施はしていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	0%	事業所に必要な研修への積極的な参加をしている。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	40%	60%	0%	面談は実施しているが、アセスメント表の活用がまだ出来ていない。	アセスメントの内容を見直しながら、より希望や要望を把握できるようにしていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0%	80%	20%		活用しやすいアセスメントシートでお子さんの様子を把握し、情報の共有を図っていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	60%	40%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	0%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	60%	40%	0%	昼礼で活動内容や送迎の確認、申し送り事項を伝えている。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	40%	60%	0%	終了時に常勤、非常勤が集まれないため、次の日の昼礼で行っている。	翌日になってしまうため、情報の漏れがないように心がけている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	40%	60%	0%	複写式の連絡帳の事業所控えの用紙に気づいたことは記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	60%	40%	0%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	40%	40%	20%	ガイドラインを把握しきれていない。	ガイドラインの内容を職員に伝えきれていないため、今後会議などで内容の共有をしていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	40%	60%	0%		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	80%	20%	0%	日々の様子は、送迎で担任の先生からこまめに聞き取りしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	20%	80%		現在、受け入れができていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	0%	100%	中高生を対象としているため、小学生利用時の事業所情報は把握するようにしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20%	60%	20%	移行支援者会議等へ参加し、事業所での様子を伝えている。	移行会議自体の実施が年に数えるほどしかないので、実施の実態を知らない職員がいる。情報の共有を心がける。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	20%	60%	20%	頻繁ではないが、参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	40%	60%		対象が中高生のため、そういった交流の場が必要かどうかを今後考えていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	20%	40%	20%	放課後等デイサービスの連絡会へ毎回参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	60%	40%	0%	お迎え時などで話を聞いたり、伝えたりしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	80%	20%	関わり方や環境の作り方など簡単な内容を保護者の方に提案するようにしている。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	40%	40%	20%		契約時、面談時などで説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	40%	60%	0%	日々の送迎時のみでは聞き取りが不十分のため、面談等で対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	40%	0%	年2回、法人内の児童通所事業所で合同交流会を実施している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	80%	20%	0%	年4回、活動の様子を写真などを掲載しながら広報を発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	80%	20%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	40%	40%	0%		
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	40%	60%	球技大会やクリーン活動など地域行事に参加している。	地域の高齢の方たちの集会場所としての要望があったが、まだ開放に至っていない。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40%	60%	0%		事業所に掲示しているが、認知度が低いので周知方法を今後見直していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	年2回訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	40%	60%	0%	虐待防止の研修に参加し、内容を全職員で周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0%	80%	20%		情報の共有が出来ていない職員もいるため、研修などを踏まえて理解を深めていきたいと思います。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	20%	60%	20%	食物アレルギーを持つお子さんの利用が現在ない。	利用があった場合は、保護者の方からの情報を基に対応していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	0%	日々振り返り、振り返った内容をデータ化している。	